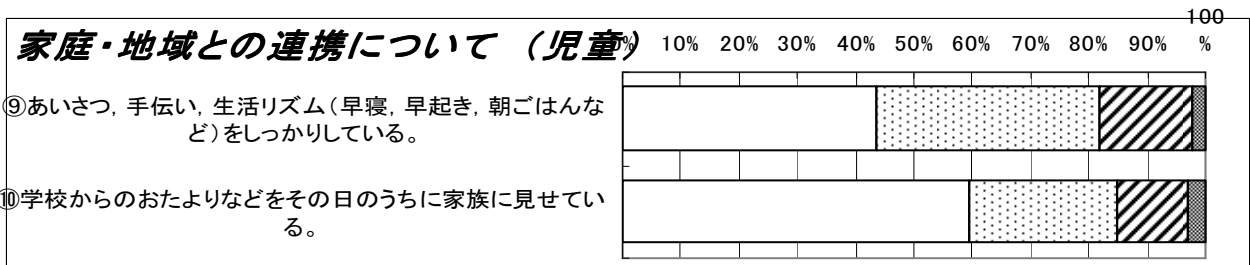
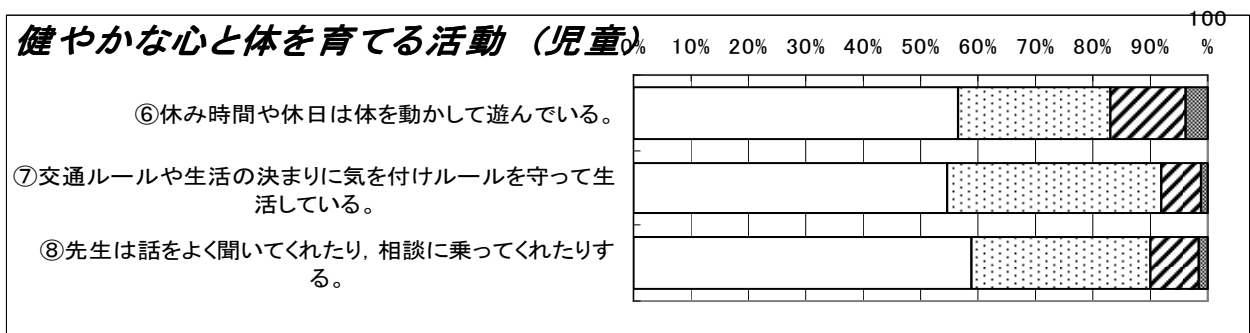
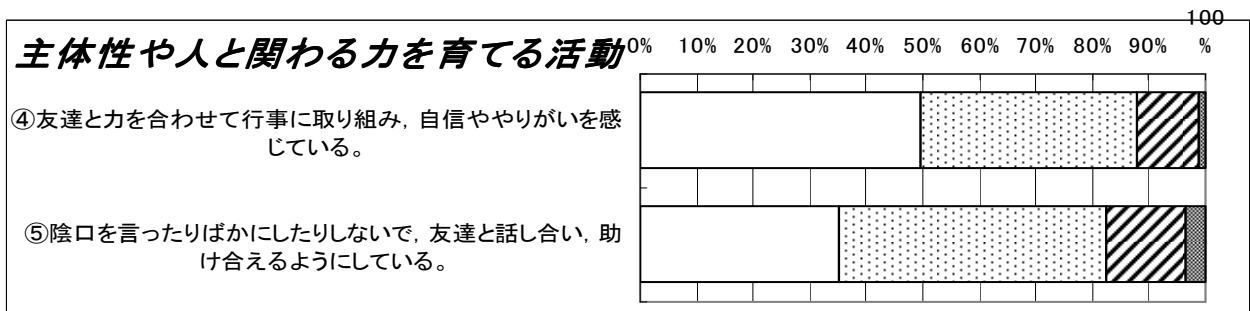
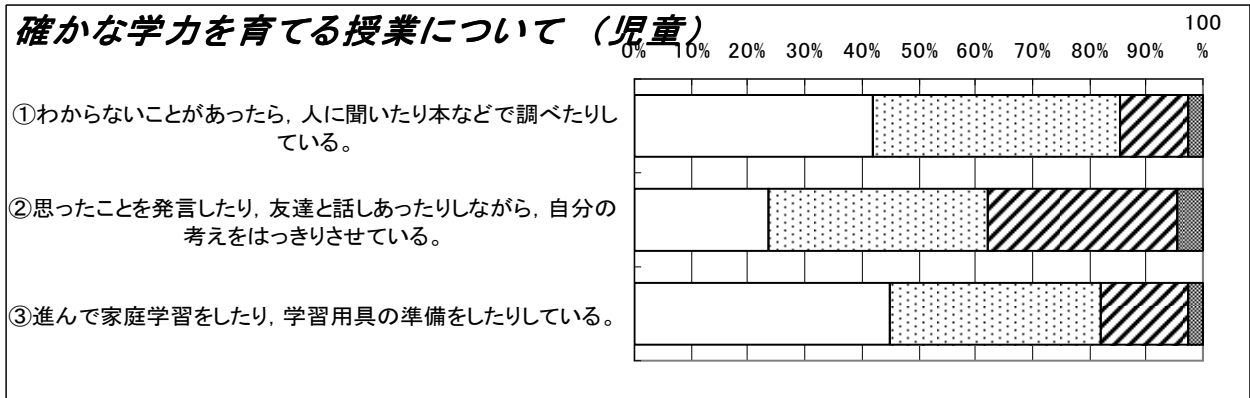


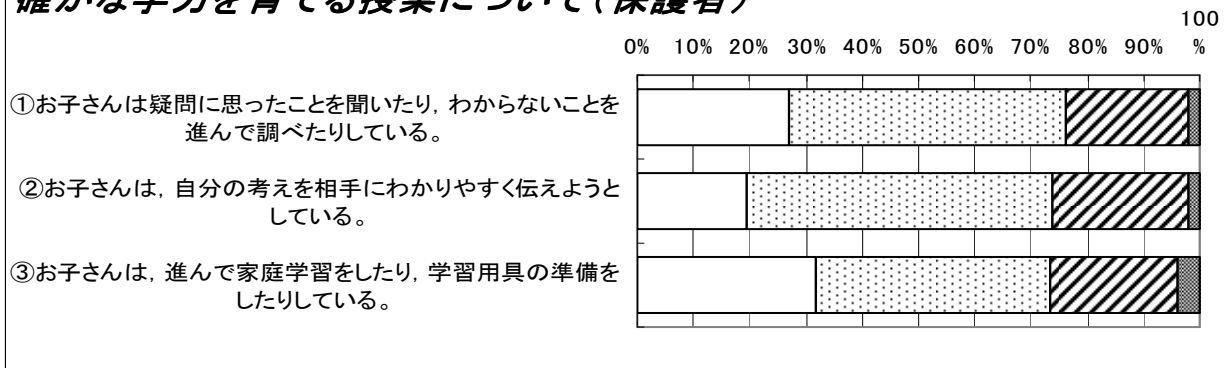
# 「本校の教育活動に関する調査」集計結果

## 【児童】

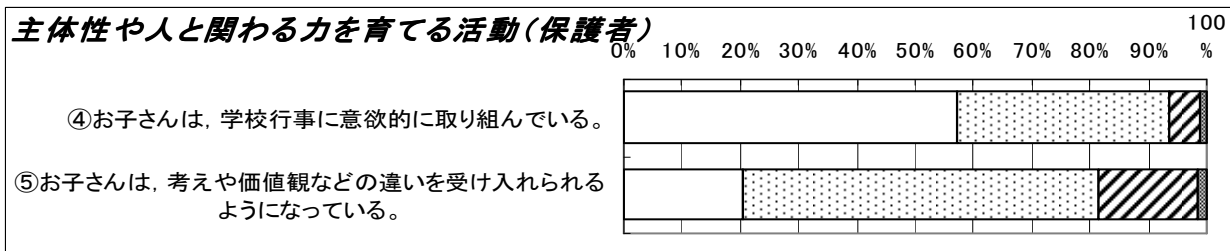


## 【保護者】

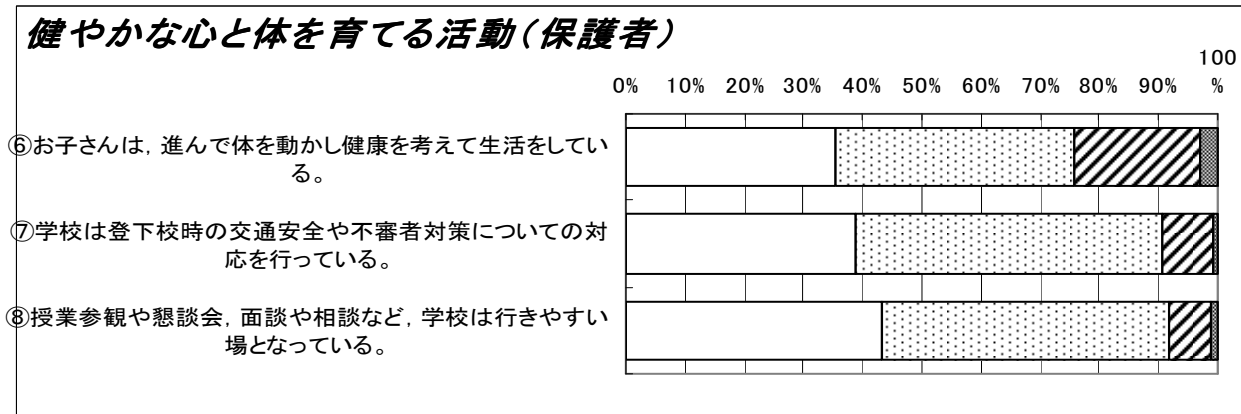
### 確かな学力を育てる授業について(保護者)



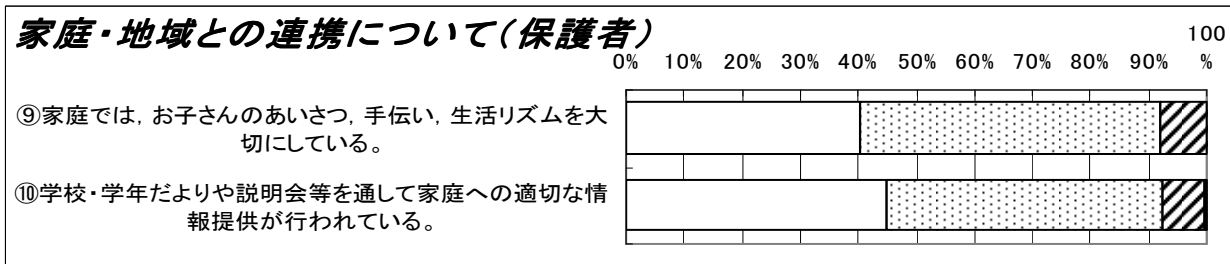
### 主体性や人と関わる力を育てる活動(保護者)



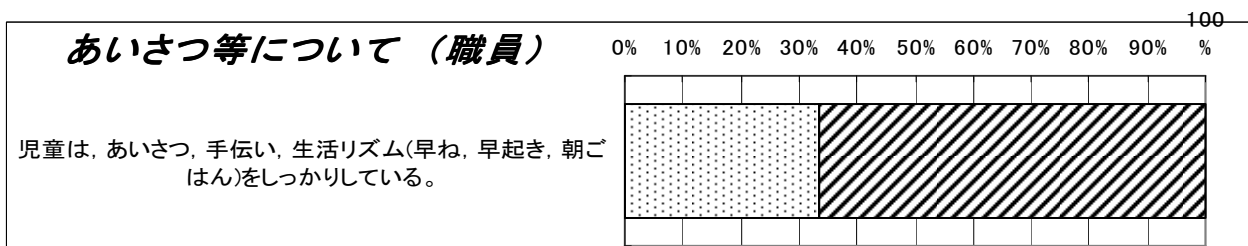
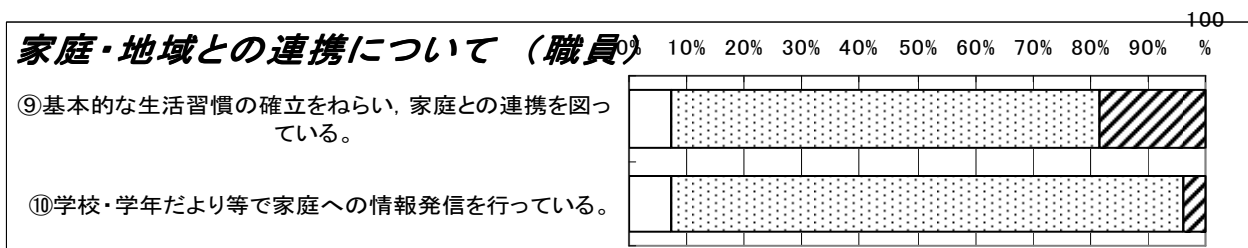
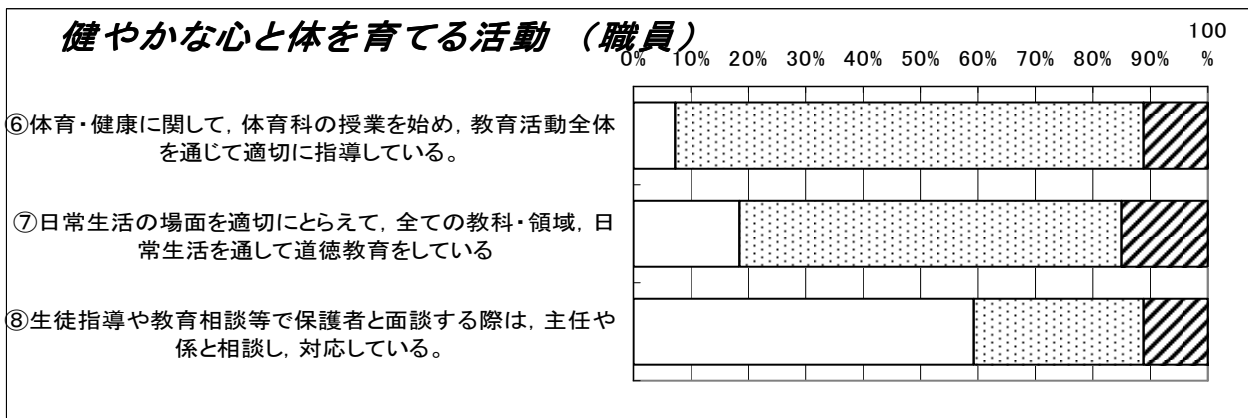
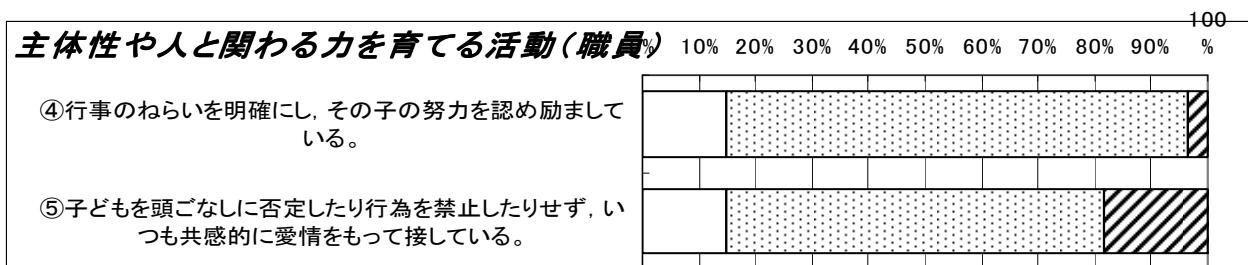
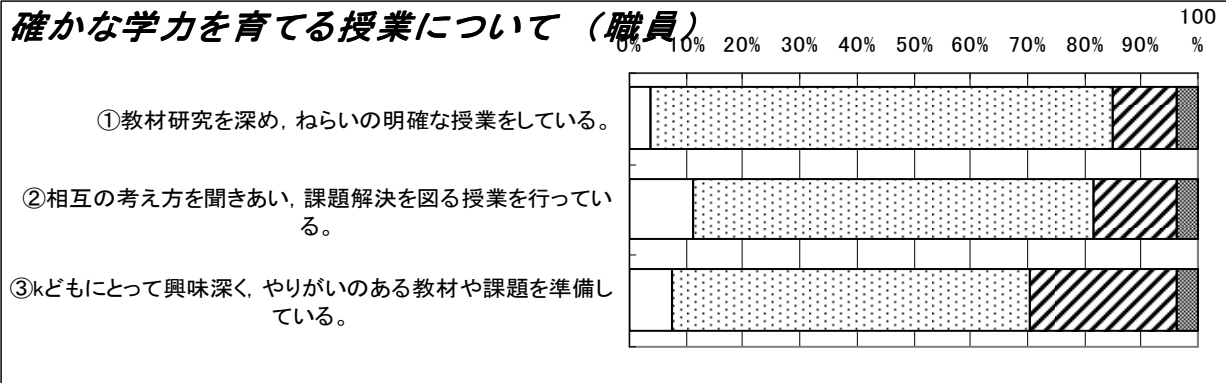
### 健やかな心と体を育てる活動(保護者)



### 家庭・地域との連携について(保護者)



## 【教職員】



# 「本校の教育活動に関する調査」の集計結果をうけて

(児童・保護者・教職員)

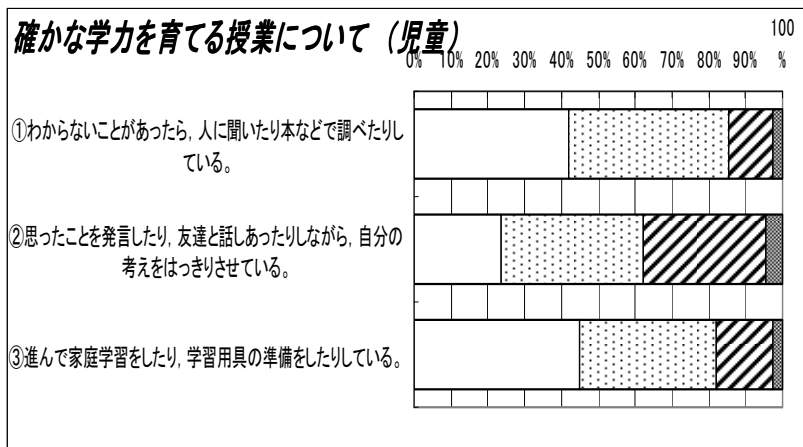
今年度の調査は、学校運営の 4 つの柱ごとに調査内容を整理し、児童と保護者の皆さんに同じ項目で質問するとともに、教職員の自己評価もあわせて行いました。

集計結果を見ると、児童、保護者、教職員それぞれ、A（あてはまる）B（ややあてはまる）を合わせた割合のほとんどが 75～90%を占めていました。70%を上回れなかった項目や、C（あまりあてはまらない）D（あてはまらない）の数値については、考えられるその理由と対策を十分検討して、改善に努めていきたいと思ひます。

## 1 確かな学力を育てる授業

「わからないことがあったら、人に聞いたり本などで調べたりしている」と思っている子どもは 85%（A 42%、B 43%）でした。保護者の方も 76%（A 27%、B 49%）がわからないことは進んで調べていると感じています。

「進んで家庭学習をしたり、学習用具の準備をしたりしている」ことについても、子どもの 82%（A 45%、B 37%）、保護者の 73%（A 32%、B 41%）が、あてはまると考えています。



しかしながら、「思ったことを発言したり、友達と話し合ったりしながら、自分の考えをはっきりさせている」と思っている子どもは 62%（A 23%、B 39%）でした。この値は、AB 合わせた割合で、唯一 70%を下回る最も低い値でした。自分の考えをもつこととそれを伝えることについて、手応えを感じている子とそうでない子にほぼ

二分されている状況です。

なぜ二分されてしまっているのでしょうか。手応えを感じられないでいる 38%（C 34%、D 4%）の子どもたちは、指図されることが多く自分で考える必要感が薄いのかもかもしれません。あるいは、考えを受け入れられないことが重なって、伝えることが億劫になっているのかもかもしれません。

まず、教師は、一人一人の思いを共感的に受け止め、理解を深める必要があります。さらに、教材研究を深めて、子どもにとって興味深く、やりがいのある課題や教材の準備に努めていきたいと思ひます。そうして、相互の考えを聞き合い、課題解決を図るといった言語活動をどの子にも保証する授業づくりに努めていきたいと思ひます。

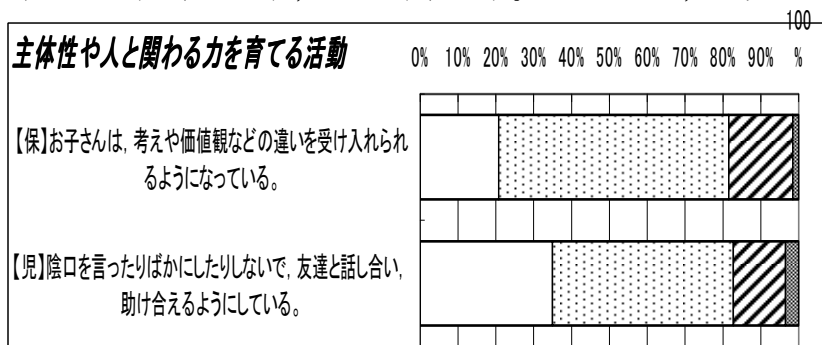
## 2 主体性や人と関わる力を育てる活動

学校行事への子どもたちの意欲的な取り組みについては、高い評価を得ています（AB 子ども 88%、保護者 94%）。人と関わる力については、「陰口を言ったり馬鹿にしたりしないで、友だちと話し合い、助け合えるようにしている」と思っている子どもが 83%（A 35%、B 48%）、

「お子さんは、考えや価値観などの違いを受け入れられるようになっている」と感じている保護者は82%（A34%、B48%）です。その一方で、そうは思えないと思っている子どもたちが

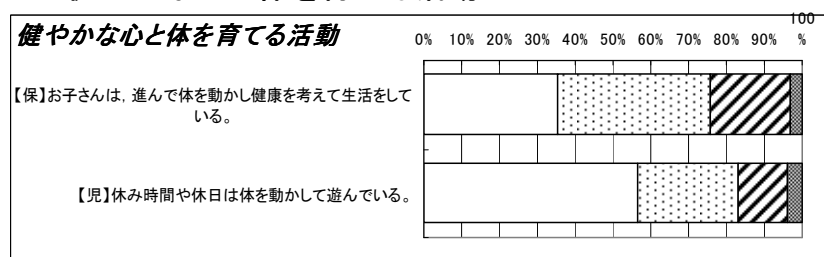
17%（C14%、D3%）いるという実態です。

行事の中で、それぞれの特徴を生かし、力を合わせ、共にがんばった経験を、日ごろの生活に活かしていくことを、教師も子どもたちと共に意識することが必要です。



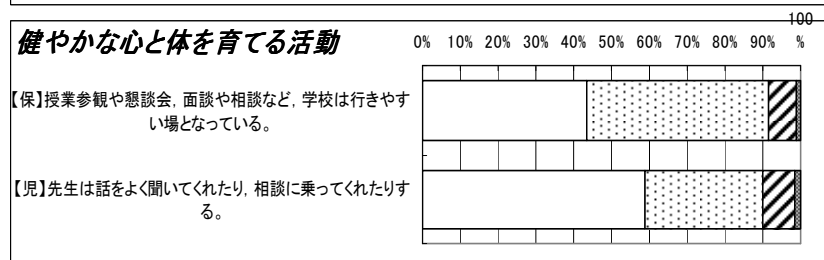
主体性や人と関わる力を高めるということは、他者と関わりながら生きる人間にとって、自己実現への道のりと重なるものであると思います。社会の一員として生きている教師が、一人の人間として自己を開き、子どもと共に人間的な弱さを乗り越えようとする姿勢で、人間的なふれあいをしていきたいと考えています。

### 3 健やかな心と体を育てる活動



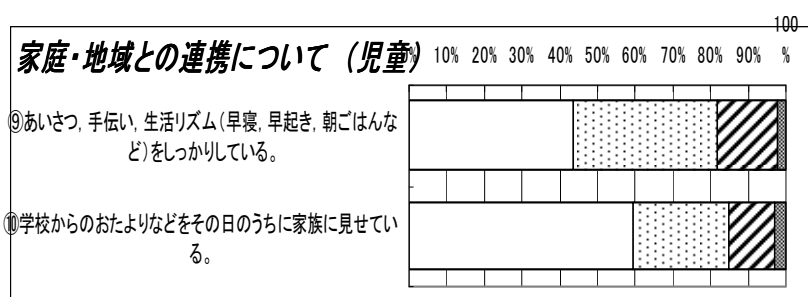
「休み時間や休日は体を動かして遊んでいる」については、子どもはAB83%、保護者はAB76%で、意識に違いがありました。

また、「先生は話をよく聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりする」という相談活動に関しては、ほとんどの子どもがそう思っていました（AB90%、保護者はAB92%）。しかし、そう感じられないでいる子どもが



いることにも目を向け、今後も家庭との連携を密にしながら、教職員全体で子どもに関わるという姿勢を大切にしていきたいと考えています。

### 4 家庭・地域との連携



「あいさつ、手伝い、生活リズムをしっかりしている」については、82%の子どもたちがそう思っています。今後も学校と家庭が連携して具体的に子どもたちに働きかけていきたいと考えています。

また、子どもと保護者の信頼を得ることに誠実に努めていきます。学校の方針をわかりやすく説明するよう心がけます。保護者の理解を得て、同じ方向で努力を重ねていくことで子どもは育つものです。成長した子どもの姿があってこそ信頼が深まるものと考えています。